

令和八年度 入学式 校長式辞

あたたかな春を迎え、雨に洗われた桜の枝からは、光り輝く若葉が萌え出でています。その若葉のような新入生をここに迎え、東京都立大泉桜高等学校第二十二回入学式を、御来賓の皆様、保護者の皆様御列席のもと挙行できること、校長としてうれしく思っております。

ただ今入学を許可した一八七名の新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんは、高校入学という目標に向けて努力し、本校を選び自らの力で試験に合格し、入学を果たしました。その努力をたたえます。本当によく頑張りました。今日から共に、この大泉桜高等学校で学んでいきましょう。

さて、入学式に当たり本校の教育目標についてお話しします。本校が、どのような生徒を育てることを目指しているのか、それは新入生の皆さんに、どういう人になってほしいか、という本校の願いでもあります。本校は、「社会の変化に対応し、生涯にわたって学び続けることができる主体的な生徒の育成」、「豊かな情操や感性を身につけ、責任感と規範意識を持つ社会に貢献できる生徒の育成」、「自らの在り方生き方を考え、将来への意欲や目的意識を持つ自立した生徒の育成」を教育目標としています。この三つの生徒像について、お話しします。

最初に示す「社会の変化に対応し、生涯にわたって学び続けることができる主体的な生徒」についてです。現代は変化が激しく不確実な時代である、と言われていています。だからこそ、私たちは現代を生き抜くために、学び続けて新しい知識や技術を身につけていかなければなりません。学校では、知識を身につけるだけでなく、学び方そのものを学ぶことも必要です。本校で、学び続ける姿勢、態度、学びに向かう人間性を身につけていきましょう。入学を機に、学習習慣を身につけ、自分で学習する力をつけましょう。本校は、生徒の自力学習時間を一時間以上、という目標を示しています。一日最低一時間は自分で学習に取り組み、自分の学習スタイルを高校生のうちにつかみ取ってください。

教育目標の二番目に示す「豊かな情操や感性を身につけ、責任感と規範意識を持つ社会に貢献できる生徒」についてです。豊かな情操や感性を身につける一つの方法に、芸術作品にふれることが挙げられます。本校では、美術を学ぶ生徒の作品が、多く校内に展示されており「学校が美術館」というのが特徴です。美術を選択しているかどうかにかかわらず、生徒の作品を日々目にする中で、何かを感じ取ってください。作品から何かを感じようとする意識をもって作品に向き合うことで、感性は磨かれます。

また、学校という集団生活の場では、ルールを守り、自分の責任を果たすことで、他人に認められ、お互いを認め合うことが必要です。そうでなければ学校という社会生活は成り立ちません。クラスでの係分担や委員会活動、部活動などをとおして責任感を養っていきましょう。自分の責任を果たしお互いを認め合うことは、他人や自分を傷つけないことやいじめを許さないことにもつながります。ルールを守りお互いの存在を大切にして、穏やかに楽しい学校生活を築いていきましょう。

教育目標の三番目にある「自らの在り方生き方を考え、将来への意欲や目的意識を持つ自立した生徒」ですが、単位制であるこの大泉桜高校において、皆さんは、他の高校と違い多様な科目の選択や卒業後の進路選択をとおして自分の内面に向き合って自分の在り方や生き方を考えることとなります。自分と向き合い自分の将来の夢を探り、自己理解を深め、先生や家族と相談し、選択をしていくこと、それはこれからの不確実な社会の中でも自分らしく生きる力、人生の豊かさになっていきます。

入学してさっそく、来週から面談週間が始まります。これから始まる高校生活の不安や悩みは先生をはじめ、周りの大人に相談しましょう。私たち教職員は、みなさんの夢の実現を応援します。新入生の皆さん、これからの三年間、高校生活を充実させて、卒業の日には、未来を切り開く力、未来の社会を生き抜く力を身につけて卒業していくことを期待しています。

保護者の皆様、義務教育の期間を終え、本日高等学校に入学されましたことをお慶び申し上げます。御家庭でも、新入生が自ら学びに向かう力を発揮し高校入学を果たしたことをたたえていただきたいと思います。そして引き続き、御家庭でも生徒をあたたかく見守り、御家庭と学校で共に手を携え、生徒のこれからの生活と成長、自己実現を支えていただきますよう、お願い申し上げます。

結びとなりますが、教職員一同、新入生を暖かく、時には厳しく励まし、支え、未来を切り開く力をはぐくむことをここに誓い、式辞といたします。

令和8年4月7日

東京都立大泉桜高等学校 校長 尾崎 肇